

耐久高等学校定時制

実施日時	令和2年11月10日（火）
参加者	生徒13名、教職員8名、計21名
実施内容	避難訓練、疑似地震体験、防災に関するプリント学習、南海トラフに関するDVD視聴

ねらい

近い将来、起こると予測される南海トラフ地震、及びその他の地震災害から命を守るための方策を疑似地震体験やDVD視聴、講義から学ぶ。

主なプログラム

- 1 避難訓練
- 2 疑似地震体験
- 3 防災に関するプリント学習
- 4 南海トラフに関するDVD視聴

概要

1 避難訓練

担任から避難訓練の目的を伝えたのち、1年生から順番に玄関前に移動、玄関前で担任が生徒の安否確認のため点呼を取った。

2 疑似地震体験

「出張！減災教室」の起震車「ごりょう君」での疑似地震体験をコロナ感染を防ぐために三密を避けながら学年別に行った。なお、当日雨天で疑似地震体験ができなかった場合のために県庁危機管理・消防課の担当による「地震・津波についての基礎講座」及び本校保健厚生・人権教育部による防災についての授業を用意していた。

3 防災に関するプリント学習

学年別に疑似地震体験を行ったので体験中の学年以外は県作成のリーフレット「『災害の記憶』を未来に伝える一和歌山県の高校生の皆さんへ」をもとに保健厚生・人権教育部で作成したプリントで地震発生のメカニズムについて学習した。

4 南海トラフに関するDVD視聴

県危機管理消防課からお借りしたDVDを全員で視聴した。

参加者感想文

- ・起震車の揺れが強烈だった。
- ・大規模な地震が近い将来予測されていることを知り、日頃から地震に備えておかななくてはと思った。

成果と課題

1 避難訓練

【成果】

各担任からの的確な指示により生徒たちはすぐに玄関前まで避難することができた。

【課題】

実際に災害が起きた時、想定されている避難経路が使えないことが考えられる。非常時の避難経路の状態を想定した避難訓練を実施することが必要である。

2 疑似地震体験

【成果】

近い将来、起こるとされている南海トラフ地震に対する準備の必要性を生徒に喚起するために今回起震車に来ていただくことにした。感想文にもあるように生徒たちにとって震度7という大規模地震の貴重な体験ができ、非常に意義のあるものになり、今後に生かすことのできる体験になった。また起震車に乗るのが初めての教員も約半数いたため今後防災教育を進めるうえでこの日の体験は教員にとっても意義深いものとなった。実施に当たっては当日の生徒たちの体調にも十分配慮したため大きな混乱はなかった。事前の綿密な打ち合わせにより当日のプログラムを想定内の時間で実施できた。

【課題】

本校で起震車による疑似地震体験の実施は今回が初めてであったため当日の準備で不備な点もあった。これを踏まえて今後はさらに注意して計画を立てていきたい。また、疑似地震体験を怖がる生徒が数名いたが疑似地震体験の意義が十分に伝わっていなかったためとも考えられる。この点も次回実施の際には注意したい。

3 防災に関するプリント学習

【成果】

地震発生のメカニズムについて十分に理解することができた。これにより南海トラフの地震や中央構造線付近の内陸地震、土砂災害及びその痕跡について知識を深めることができた。

【課題】

今回は疑似地震体験に時間を多くとったためプリント学習での学びをあまり深められなかった。県作成のリーフレットなどを活用し、各地に残る災害の記録などについてももう少し深く

学習できるような内容の検討が必要である。

4 南海トラフに関するDVD視聴

【成果】

南海トラフやその他の災害時の避難方法について視覚に訴えて学習するのは効果的な方法であった。

【課題】

今回視聴したDVDは生徒にとってやや難しめの内容だったので今後はもう少しわかりやすいものを選びたい。また、DVD視聴後に地震に対する日頃の準備の必要性を説明したが、様々な準備の具体例を挙げていなかったため次回実施の際にはそれらを挙げて説明したい。



疑似地震体験の様子



南海トラフに関するDVD視聴の様子



教員による説明の様子